

中病だより



自衛隊中央病院
総務部総務課発行
令和2年度
第3号

年頭の辞



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。また、平素からの当院への格別のご支援とご協力に、全職員を代表して、心から御礼申し上げます。

昨年十二月二十二日に、第十六代自衛隊中央病院長を拝命いたしました福島と申します。昨年、自衛隊中央病院は、一月から始まった未知の新型コロナウイルス感染症への対応のため、クルーズ船からの多くの患者を受け入れるとともに、第二波、そして今年につながる第三波への対応、加えて、その間に大量傷者受け入れ訓練や感染症患者受け入れ訓練という二つの大きな訓練を実施した年でありました。この間、前上部病院長の指導の下、職員一同、確実に、各種対処能力の向上を果たせたものと思います。

新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えを知らず、この一月七日には一都三県に緊急事態宣言が発令されました。東京都に所在する第一感染症指定医療機関でもある当院は、新型コロナウイルス感染症患者への対応のため、近傍部隊のご支援も賜りながら、態勢強化を図っているところです。

このような状況におきましても、当院は、引き続き、緊迫する安全保障環境の中、自衛隊衛生の中核として診療に携わる隊員教育の質的向上を図るとともに、自衛隊の最終後送病院としての責務や、大規模災害、CBRN等の特殊災害を含めた各種事態等へ実効的に対応するため、主体的に能力向上を図り続けなければなりません。

丑年には、先を急がず目の前のことを着実に進めることが、将来の成功につながっていくと申します。本年も、皆様のご支援並びにご協力を頂きながら、任務の完遂に努め、前進してゆく所存でございますので、自衛隊中央病院をよりしくお願い申し上げます。また、本年が皆様にとりまして、良き年になりますよう心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和三年一月吉日

自衛隊中央病院長

防衛技官 福島 功二



副院長(陸)
陸将 鈴木 智史

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、コロナ禍ではありますが新しい生活様式の中で、穏やかで素晴らしいお正月を迎えられていることと思います。昨年は、自衛隊中央病院に対し多大なご支援、ご協力を賜りありがとうございました。

昨年は、職員一丸となって診療態勢を更に充実し、救急車受け入れを継続するなど、地域医療の重要な一翼を担うと同時に、医療従事者の能力向上と教育の充実を図ることができました。

また、検疫支援、ガイアモンドプリンセス号対応等の災害派遣活動に始まり、第一種感染症指定医療機関として責任をもって新型コロナウイルス感染症診療を行ってきました。それに加えて、大規模スポーツイベント開催を想定したテロ災害対処訓練や新型コロナウイルス感染症流行下における新型インフルエンザ感染症対処訓練等を部内外の多機関と連携して実施し、指揮幕僚能力及び事態対処能力の向上を図ることができました。

今年、新型コロナウイルス感染症対応も継続して行いつつ、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを踏まえ、テロ・特殊災害および事態対処能力をいつ何時でも発揮できるようにし、最終後送病院たる自衛隊中央病院の役割をしっかりと果たしていきたいと思っております。

本年も引き続き、福島病院長を核心として、国民の期待に応え信頼される病院であるとともに、教育訓練等を通じて更なる自衛隊衛生の能力向上に寄与するために、微力ながら努力していく所存です。変わらぬご指導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

今年一年が皆様にとって素晴らしい年となりますことを祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



副院長(海)
海将 徳永 徹二

新年明けましておめでとうございます。コロナ感染症拡大で騒がしく例年と異なり穏やかな年末年始を過ごすことができなかった方々やゆとり休みできなかった方々も多かった方々も多かったことと思います。昨年十二月二十二日付で副院長として着任しました。前配置は自衛隊横須賀病院長でした。自衛隊中央病院勤務は今回で三回目となります。前回は東日本大震災がおきた九年前まで勤務していましたが医療安全評価官でした。この九年前間において東日本大震災はもとより熊本地震、東日本豪雨の他毎年のように風水害が発生し、自衛隊の活動は国民に見える形で多く行われるようになりました。グラウンドゼロ時代と呼ばれる昨今、北朝鮮における度重なる弾道ミサイル発射や中国における南西諸島における威行動は活発化しています。安全保障に関する自衛隊の活動は安倍内閣時に集団的自衛権の閣議決定をうけることとなりドラスティックな環境の変化がこの九年前に生じました。ここ数年における自衛隊に対する国民の信頼度は極めて高くほぼトップを独占している状況です。

そのような状況下において昨年中国から始まったコロナ感染状況下において自衛隊のなかでもとりわけ自衛隊衛生に多くの国民の期待があることは疑うまでもありません。自衛隊中央病院は第一種感染症指定医療機関として首都圏におけるその役割を担うだけでなく、間断なく国内のみならず海外で任務を遂行している隊員達にとっていざというときに高度な医療を提供してくれる最終後送病院です。このように内外からの多くの期待と付託を与えられている自衛隊中央病院において、よいことの前触れの年とも言われる丑年を新福島院長体制の一員として微力ながら尽力していく所存です。「明けぬ夜はない」、「夜明け前が一番暗い」という例えがあるように今が一番苦しい時かもしれませんが一緒に頑張っていきたいと思います。



総務部長
防衛事務官 大堀 健

新年あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては、穏やかな
新年をお迎えのこととお慶び申し上げ
ます。

さて、昨年は半世紀ぶりの東京オリ
ンピック・パラリンピックの開催に向
けて、年初から希望と高揚感が高まりを
見せていたところ、残念ながら、新型
コロナウィルス感染症が全てを吹き払
う猛威を振るった一年となってしま
いました。年が改まって、未だ収束の
見通しも立たず、皆様ご承知のとおり
新規陽性者数、重症者数、死亡者数な
ど、連日のようにどこかでいづれかが
過去最多を更新し続けている状況にあ
ります。

このような中、昨年十二月の読売新
聞社と米ギャラップ社が実施した日米
共同世論調査において、信頼している
国内の組織、公共機関で九年連続して
一位だった「自衛隊」を「病院」が抜
いてトップになりました。当院も当然、
「自衛隊」の一員ですが、「自衛隊」
を代表する「病院」ですので、いかに
多くの信頼を集めているかは言を俟ち
ません。自衛隊中央病院としても、昨
年末に新たに着任した福島病院長の指
導の下、皆様から寄せられる多くの期
待、信頼に応えるべく、「最後の砦」
との矜持をもって踏ん張っているところ
です。私ども総務部も、微力ながら
院務運営を下支えしてまいりたいと考
えています。



最先任上級曹長
准陸尉 犬飼 耕

謹んで、新春のお慶びを申し上げま
す。旧年中は全国の皆様に大変お世話
になり、誠にありがとうございました。

昨年は、平和の祭典オリンピック・パ
ラリンピックが日本で開催される輝か
しい年であるはずでした。しかし、新
型コロナウィルス感染症が世界で流行
し、国内においてもその影響は大きく
平和の祭典は延期となり、感染症事態
に対しては自衛隊の様々な感染症拡大
防止のための救援活動が行われました。
その中で自衛隊中央病院は、救援活動
当初から現在に至るまで、感染症事態
に対し、各人と組織が一体となり院内
感染防止・医療事故防止・個人の健康
管理に努め、疫災という困難に対し奮
励しつつ自衛隊としての任務を継続し
ています。引き続き最先任上級曹長とし
て病院准曹士とともに、病院長統率方
針である常在戦場を心構えとし、要望
事項である友愛、誠実、努力、感謝を
日々確かめ、長期のコロナ禍において
も前進を感じるよう努めたいとおも
います。本年も、病院の上級曹長業務系
統を更に機能向上させ活動の基盤とし
衛生科隊員の意識改革及び活性化に信
念を持って取り組むとともに、陸海空衛
生科と在日米軍等との下士官交流を推
進し、相互理解、連携を深化していく
所存です。結びに、皆様とご家族に
とって幸多き心安らぐ年となりますよ
う祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

新着任院長等紹介

- 自衛隊中央病院長
防衛技官 福島 功二
(前職 防衛医科大学校 幹事)
- 自衛隊中央病院副院長
海将 徳永 徹二
(前職 自衛隊横須賀病院長)

病院長・副院長(海)離任行事等

上部病院長離任行事

令和二年十二月二十一日(月)、
上部泰秀病院長の離任式を挙行しまし
た。

「大勢の職員に見送られる
上部 泰秀病院長



佐藤副院長退官行事

「見送りに応える
佐藤 道哉副院長



第58回

東部防衛衛生学会開催

自衛隊中央病院は、令和二年十一月
六日(金)、三宿駐屯地体育館におい
て、「自衛隊における新興・再興感染
症対処について」(新型コロナウイルス
感染症対応の経験と教訓)をメイン
テーマとし、第五十八回東部防衛衛生
学会(学会長 鈴木智史陸将)を開催
しました。

学会は自衛隊中央病院 上部泰秀病
院長(当時)の訓話「皆さんに再認識して
いただきたい自衛隊衛生について」に
始まり、部隊及び病院による一般演題
二十一題、ついで、「自衛隊におけ
る新興・再興感染症対処について」を
テーマとしたシンポジウムが行われま
した。シンポジウムでは、統合幕僚監
部 吉井一海佐、空自補給本部 宮脇
一空佐、自衛隊中央病院 伊藤一陸佐、
水口一陸佐及び三村一陸佐の五人のシ
ンポジストにより、感染症対処に関す
る議論が交わされました。

本学会はコロナ禍での開催でしたが、
参加者全員への検温や手指消毒、ソー
シャルディスタンスや換気等、各種感
染予防対策を徹底しながら実施しまし
た。



↑学会長 鈴木智史陸将による開会挨拶



↑感染対策の着意がされた会場

令和2年度 大量傷者受入訓練

自衛隊中央病院は令和二年九月五日（土）、令和二年度自衛隊中央病院大量傷者受入訓練を実施しました。

本年度は、「大規模スポーツイベント開催中における同時多発テロを想定した大量傷者受入訓練を実施し、各種事態対処態勢の万全を図る。この際、新型コロナウイルス感染症蔓延状況に左右されない柔軟な訓練の計画及び感染防止の処置に留意する。」として実施しました。

本訓練には航空自衛隊、陸上総隊、東部方面隊及び陸上自衛隊衛生学校等の部内関係機関等並びに、世田谷区医師会、日本DMAT、警視庁、東京消防庁等の部外関係機関等にも参加していただき連携を深めることができました。訓練は、大規模スポーツイベント会場で、同時多発テロが発生し大量の患者が多発しているとの一報を受け、病院は大量傷者の受入れを決心し、大量傷者受入計画を発動、消防からの患者受入要請に対応するところから開始しました。駐屯地内に設けられた仮想のテロ発生現場では、警視庁及び消防庁等が現場活動を行い、他のテロ発生現場からは、航空後送（ヘリ）により患者が搬送され、病院の大量傷者受入



↑警察ヘリによる患者後送



↑重症患者を処置する医官

チームが患者の受入・処置を演練しました。今回の訓練では、初めて部外のヘリも参加し、患者の受入れや重症患者の域外転院搬送について演練することができました。搬送されてくる患者は全て、新型コロナウイルス感染症疑似症として扱うため、訓練参加者は個人防護衣を装着し、コロナ禍における大量傷者受入対処要領の練度向上を図りました。

本訓練には河野防衛大臣（当時）、山本防衛副大臣（当時）、山崎統合幕僚長、湯浅陸上幕僚長をはじめ約八五名のご視察、研修等をいただき、自衛隊中央病院の各種事態対処への取組みについてご理解をいただきました。



↑軽傷エリアでの患者受入



↑重症エリアをご視察する河野防衛大臣（当時）

令和2年度 感染症患者受入訓練

自衛隊中央病院は令和二年十一月二十一日（土）、令和二年度感染症患者受入訓練を実施しました。

本訓練は、新型コロナウイルス感染症流行下に新型インフルエンザが流行し、一般外来患者はもとより、自衛隊においても東部管内複数の駐屯地で熱発患者が確認され、自衛隊中央病院へ受入要請があったとの想定で実施しました。

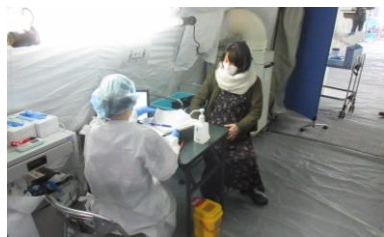
午前中の前段訓練では、水際対策期の自衛隊中央病院としての対応を作戰会議で決定し、受入れ態勢の確立まで

を演練しました。午後の後段訓練においては都内で発生した自衛官含む多数の熱発患者の受入れを実行動で演練しました。

訓練では発熱外来を病院西側道路にエアドームで解説し、ウォークイン患者の一次トリージ受入れ要領を、救急外来では救急車で搬送された重症患者の受入要領を演練しました。また、患者は八西（設想）及び九西病棟へ収容され、病棟では、採血、X線撮影、点滴等の処置を演練しました。

訓練終了後には、意見交換会を実施し、研修に参加された東京都福祉保健局、近傍保健所及び感染症指定医療機関等の参加者から、活発な意見をいただき、様々な教訓を得ることができました。

当院は引き続き、訓練を通じて、対処能力の向上を図ってまいります。



←専用病床で重症患者の処置



←感染対策を行い、意見交換会を実施



自衛隊中央病院 創立65周年記念行事開催

自衛隊中央病院は、令和二年九月二十六日（土）自衛隊中央病院創立六十五周年記念行事記念行事を開催いたしました。

当日は、感謝状贈呈式をエントランスで行い、当院に対し多大なご協力、ご支援をくださった四名の方々に上部前病院長から感謝状が贈呈されました。記念講演では上部前病院長が「新型コロナウイルス感染症対処の概要について」と題し、昨年一月から始まった、新型コロナウイルス感染症に関する当院の活動について、記念講演を実施しました。また、特別講演では、統合幕僚長 山崎陸将から「自衛隊衛生に期待すること」、スポーツジャーナリストの増田明美氏からは「ニッポンの強さ、NIPPONの優しさ」との演題で講演をいただきました。会場の駐屯地体育館では、中央病院職員のほか、衛生学校及び三桜会会員等が熱心に講演に聞き入っていました。

感謝状受賞者
安藤 淳夫 様
沖田 美智 様
水野 博司 様
谷内 一正 様

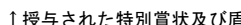
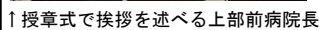


↑山崎統合幕僚長による特別講演

内閣総理大臣特別賞状受賞

第18回「国民の自衛官」受章

表彰式で



令和二年十二月四日（金）

並びに令和二年十二月十一日（金）、自衛隊中央病院は岸防衛大臣及び中山副大臣の視察を受けました。岸防衛大臣らは、自衛隊中央病院の概要と新型コロナウイルス感染症への取組みについて状況報告を受けられた後、八階西病棟及び救急室等を視察されました。特に、八階西病棟においては病棟設備、看護官等の勤務状況及び感染管理状況についてご理解をいただくとともに、病棟勤務員に対し直接、激励のお言葉をいただきました。



○学術優秀者の紹介

看護部第二看護課 小林
知佳三陸尉は、衛生学校で実
施された第一〇〇期幹部初級
課程「看護官」において、優
秀な成績により衛生学校教育
部長より、報賞状を授与され
ました。

So You
だより

診療科 准陸尉 長坂 岳秀)

自衛隊中央病院曹友会(会長は令和二年度の活動を開始するにあたり、三宿駐屯地曹友会のキャッチフレーズの『情熱、三宿大陸!』とともに、自衛隊中央病院曹友会の活動スローガンとして、『新型コロナウイルスを「持たず」、「持たせず」、「持ち込ませず」』と定め、コロナ禍においても幅広い活躍の場を模索しました。

その中でも、今年度は、感染対策を実施しつつ、『秋の交通安全運動』とタイアップした「あいさつ運動」並びに「抜き打ちアルコールチェック」を、三宿駐屯地曹友会と合同で、駐屯地正門及び東門において実施しました。



中には、看板を見て積極的に積込にチャレンジする職員もおり、意識の高さを感じることができました。

↑雨の中、職員に声をかける曹友会員

「保健相談班」

新しい生活様式と

健康管理

新型コロナウイルス感染症が
猛威を奮い、私たちの生活にも
様々な変化が起こっています。
今回は、健康管理という面から、
心掛けておきたいことを紹介し
ます。

【出勤前の体温測定】

健康状況の把握は、本人だけでなく周りの人への配慮の上から重要です。出勤前に体温を測定し、健康状況を確認すること、発熱など症状がある場合には、**出勤せずにまずは報告**することが大切です。

【個人防衛を確実に】

手洗いやマスクの正しい着用は基本であり、大切です。

アルコール消毒も大切ですが、目に見える汚れがある場合は、まずは流水での石鹸手洗いをしましょう。

またマスクは、自分を守るだけでなく「周りの人へ拡げない」ことができます。「自分は大丈夫」ではなく、**職場の仲間や周囲の人たちを守る目的もぜひ忘れないでください**。また感染者が出た時のために、自分がマスクをしていたか、相手がマスクをしていたか、意識して記憶することをおすすめします。

しかしマスクの着用については、熱中症のリスクなども考慮し、個室での業務や、周りに人がいない状況では外すなど、状況にあわせて判断しましょう。

【基礎疾患はきちんとコントロール】

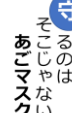
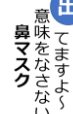
新型コロナウイルス感染症に
関連した健康観察を行う中で注
意したいのが、花粉症や片頭痛
喘息など、**基礎疾患の健康管理**
です。

頭痛や咳、鼻水、呼吸困難感などは、新型コロナウイルス感染症の症状に含まれます。症状が出てからでは否定が難しくなります。例えば花粉症では、早めの受診を計画し、予防的な内服を行う（飛散予想のおおむね2週間前から内服）など、症状を抑える対策をしましょう。喘息も発作時の対処だけという方もいらっしゃるのですが、日々の吸入の大切さを改めて考える機会にしてほしいと思います。

また糖尿病などの基礎疾患のある方や50歳以上の方は、感染時の重症化が懸念されます。体調不良時には早めの受診を心がけましょう。

【やはり大切！3密を避ける】

やはり3密を避けることが大切です。居酒屋・外食や会食など飲食を伴う場での感染リスクは高く注意が必要です。

記事担当
保健管理

センター保健相談班